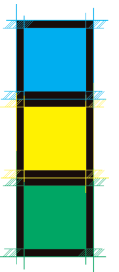


毎日アースデイ新聞

Mainichi Earthday Paper

港区立エコプラザ版
<http://eco-plaza.net>



2009年(平成21年)7月18日(土) Vol.394

発行：毎日アースデイ株式会社
〒105-0013 港区浜松町1-13-1

FREE

“木づかい”の輪を広げるために



15日午後、エコプラザのラーニングルームからなにやら緊張感に満ちた空気が漂ってきました。中をのぞくと、ぐるりと囲んだ審査員を前に広告代理店や制作会社の人々がプレゼンテーションをする姿がありました。「平成21年度木づかい運動普及に係るポスター及びパンフレット制作業務」への応募者によるプレゼンテーションが行なわれていたのです。

この日プレゼンテーションをしたのは、事前に提出されたプランによる予備審査を通過した10組。国産材の活用を推進することでCO₂をたっぷり吸収する元気な森林づくりを進めようという「木づかい運動」の趣旨を、一般の人々にアピールするポスターとパンフレットの提案が十者十様の切り口で示されました。審査員たちからは制作に関する意図や体制についての質問が投げかけられる一方で、「この木は広葉樹じゃないですか？」(※日本で問題となる人工林の大半はスギやヒノキなどの針葉樹林)といった指摘も飛び出すなど、プレゼンテーション自体も木づかいの学びの場となっていました。今回の提案に対する最終的な審査結果は、審査員による審議を経て、木づかい運動情報サイト「木づかい.com」(<http://www.kidukai.com>)などで公表される予定です。発表をお楽しみに。

梅雨の晴間のMERRYな収穫祭



11日午前、梅雨の晴間に輝く太陽のもと、メリープロジェクト(MERRY PROJECT)主催の収穫祭が六本木の同プロジェクト事務所の屋上で行なわれました。4月のアースデイ東京2009で同プロジェクトが開いた苗植えのワークショップに参加した子どもたち十数人が集まったこの収穫祭。3カ月前に自分たちが植えたミニトマトなどを収穫し、その場でかぶりつく子どもたちの笑顔が青空の下にはじけました。

この日の収穫祭では、収穫に先立って同プロジェクト主宰の水谷孝次さんが、苗を植えてから実をつけるまでの様子を観察日記として説明。待ちきれない、といった表情の子どもたちは、説明が終わるや否や我先にとミニトマトに走り寄り、この屋上農園の監修を手がける西城明男の指導のもとで次々に収穫していきました。収穫祭に参加したある子は、トマトが苦手にも関わらず「自分で植えて採ったトマトはおいしい！またやりたい！」と話していました。

人手不足などの深刻な問題を抱える農業ですが、「10年後、20年後の世界はいまの子どもたちが主役。その子どもたちが農業の楽しさを知ってくれば未来はきっと開けます」と話す水谷さん。収穫を楽しむ子どもたちの満面の笑みは、そんな水谷さんの言葉を楽観的に信じてみてもいいかもしれない、と思わせるだけのパワーに溢れていました。



きょうのエコチェック —2009年7月18日(土)—

◎エコチェックできたら、この用紙をエコプラザの受付にお持ちください。エコポイントがもらえます。

1	きょう、何かCO ₂ 排出量の削減をこころがけた？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
2	きょう、何かオーガニックの衣類を身につけた？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
3	きょう、何か国産の間伐材製品を手にした？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
4	いつも、省エネタイプの冷蔵庫をつかっている？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
5	きょう、環境に負荷のかかる洗剤はつかわなかった？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	「はい」の合計		コ